

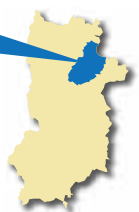


屋号やごうが生きる、”お伊勢参り”の宿場町

宇陀市室生三本松・元三地区



- ①道標
- ②ぬしや
- ③三本松跡(3代目の松)
- ④道の駅「宇陀路室生」



「古民家ぬしやから街道」

江戸後期から旅籠「ぬしや」を営んでいた西岡家住宅。近所の人からは今も「ぬしやさん」と呼ばれる。



「明治時代の古写真」

「ぬしや講看板と古写真」

「ぬしや」に残る古看板。現代のツアーの旗印のように、参宮客の目印となっていた。古い宿帳には「明治19年、大人一泊13銭、昼飯6銭」の記述も残り、旅籠の歴史をしるす。

「明治期の道標」

明治5年建立の道標。刻まれた文言から、榛原と名張のちょうど中間地点であることが分かる。



「紀伊半島交流会伊勢街道分科会・元三地区」



屋号という形のないものを屋号札で形にした、歴史ウォークのイベントを開いたり。今後は歴史マップも作るなど、古くからの歴史と記憶を掘りおこし、この地の良さを次代に伝えていきたいと思っています。

談：裏宗久代表(右端)

「かぎやさん、お久しぶり」「ますやさん、お元気で」。

名字より、屋号のほうがピンとくる。この地域では、今なお、かつての商号(店名)であった「屋号」で旧家呼び習わすお年寄りも少なくありません。

ところは「あを越え伊勢街道」が通る宇陀市室生三本松の元三地区。榛原の萩原と三重県名張市のほぼ中間に位置し、江戸時代から「お伊勢参り」の宿場町として栄え、鉄道が通る昭和の初めまで、多くの人出でにぎわいました。

今も街道沿いには、江戸、明治、大正期の歴史ある古民家が点在。かつての旅籠や商

家が往時の風情をとどめています。その軒先に約3年前から、懐かしい屋号を記した札が掲げられるようになり、また、地域住民に聞き取りを重ね、市民グループが一軒一軒、掛けたもので、今では約20軒にも及びます。

通りには江戸期の大神宮灯笼や明治期の道標なども残り、丘を見上げれば、土地の名の由来となった「三本松」と呼ばれた松が歴史の息吹を今に伝えていきます。三本松は鎌倉時代の執権、北条時頼が実を蒔いたと伝わるもの。枯れては植えてを繰り返して、今は3代目の松が元気に育ち、人々を見守っています。



中央の一番高い木が3代目の松